

リスクと機会

大塚グループの重要課題（マテリアリティ）特定にあたり、社内外の環境変化から大塚グループにとってのリスクと機会の分析、評価を行いました。今後もリスクと機会の検討を継続的に行いながら、大塚グループの各重要課題（マテリアリティ）の取り組みへ反映させるとともに、活動を推進していきます。

外部環境	リスク	機会	対応（具体的な取り組み）
<ul style="list-style-type: none"> 主力領域の競争の激化 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発の遅延・中止 独占事業期間の短縮 競合品の台頭 	<ul style="list-style-type: none"> 固定観念にとらわれない独自性から生み出される大塚ならではの薬剤によるアンメット・ニーズへ対応 	<ul style="list-style-type: none"> 重点領域などにおけるパイプラインの充実化 ▶ P.32 開発品目の拡充 研究開発方針の適宜見直しによる適切なポートフォリオ管理
<ul style="list-style-type: none"> 買収・提携の実施以後の事業環境等の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 提携先や買収先へのデュー・ディリジェンスの不足によるシナジーの未実現 提携または買収後の事業管理の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 慎重かつ目的の明確な戦略とポスト・マージャー・インテグレーション（PMI）などによるグループ力の拡大および多様性の向上によるイノベーション力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 対象企業や資産に対する詳細なデュー・ディリジェンス実施 提携または買収後の事業モニタリングの強化
<ul style="list-style-type: none"> 消費者の潜在ニーズの変化 セルフメディケーション、予防、日々の健康に対する意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の顧客ニーズへの不対応 	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題起点型の事業のさらなる展開 	<ul style="list-style-type: none"> マクロ・ミクロ動向の注視・分析 製品や地域特性を踏まえた長期的な視点による戦略の最適化 関連部門の連携による、効果的な情報収集・分析および戦略策定
<ul style="list-style-type: none"> 世界的な人材難 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な戦略推進に必要な人的リソース確保の不調 人材育成の不調 	<ul style="list-style-type: none"> NC領域における科学的な根拠をベースとした独自の製品とマーケティング 	<ul style="list-style-type: none"> 経営人材育成プログラムの設置による、次世代の人材の早期発掘・育成 ▶ P.50 「大塚グループ・グローバル行動規準」に基づく「ダイバーシティ&インクルージョン」推進と、制度や仕組みの整備 ▶ P.51
<ul style="list-style-type: none"> 届出と製造実態の相違をはじめとする不正事案の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 品質問題や関連法令不遵守による販売中止、回収などによる供給の不安定化およびブランド価値や信用の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 独自の企業文化・理念に基づく人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 各国の規制に準拠した製造および品質管理の徹底 ▶ P.55 製造委託先や原材料調達先に対する、定期的な品質保証体制の確認・評価など
<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンの透明性の重要性認識の高まり 地政学リスクなどによるサプライチェーンの分断 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンにおける重大なコンプライアンス違反や不適切な行為（人権、労働、環境、腐敗など）の発生 資材調達や供給の不安定化 	<ul style="list-style-type: none"> 「ダイバーシティ&インクルージョン」推進によるイノベーションやグローバル化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> 「大塚グループ 調達方針」および「大塚グループサステナブル調達ガイドライン」の策定 ▶ P.54 サプライヤー選定時におけるデュー・ディリジェンスの実施 継続的なモニタリング体制の整備 複数社購買などによる調達先の分散化、および代替原料の確保 適正在庫の確保、および生産拠点の複数化
<ul style="list-style-type: none"> 気候変動 	<ul style="list-style-type: none"> 炭素税の導入等の法律・規制に関するリスク 脱炭素社会への移行による製品・サービスのニーズの変化 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な再生可能エネルギー導入による脱炭素化への移行 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会等の設置による環境問題への取り組み体制整備 ▶ P.58 環境のマテリアリティ（重要項目）に2028年、2030年目標を設定し取り組みを推進 ▶ P.57 RE100イニシアチブへの加盟 ▶ P.60 ISO14001（環境マネジメントシステム）の統合認証取得の取り組みによる、効率的かつ実効性の高い活動推進
<ul style="list-style-type: none"> 大規模な自然災害やパンデミック 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な自然災害やパンデミックによる工場などの稼働停止、人的資産の喪失、製品開発の中断や遅延 	<ul style="list-style-type: none"> パンデミックによる生活様式の変化および健康意識の高まりに合った製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（BCP）の策定、および継続的な見直し・改善 定期的な訓練・演習の実施 新型コロナウイルス感染症防止策の徹底
<ul style="list-style-type: none"> DX推進 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルトランスフォーメーション推進の遅延・不足による競争力低下 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルを活用したヘルスケア製品の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 最新技術の導入、実証実験や実務適用 セミナーや情報連携によるグループ全体のリテラシー・スキルの向上 ▶ P.50